

だいいちだより

<http://www.daiichisho.com>

TEL 0598-21-0254

2025年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

4月17日に6年生で実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。今回は、国語・算数・理科の調査が行われました。本校においては、すべての教科で全国の平均正答率を上回る結果となりました。

	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本校	9.7 問／14問	69%	11.9 問／16問	75%	10.6 問／17問	62%
三重県	9.3 問／14問	66%	9.1 問／16問	57%	9.5 問／17問	56%
全国	9.4 問／14問	66.8%	9.3 問／16問	58%	9.7 問／17問	57%

教科に関する調査の結果・分析

国 語	強 み	複数の資料から必要な情報を読み取って答える問題において、問題の【メモ】内の空欄に入る適切な言葉を資料から書き抜く問題と空欄に当てはまる内容として適切なものを選ぶ問題について、全国平均を10ポイント以上と、大きく上回った。国語や算数、総合的な学習を中心に、様々な資料をもとに学習活動をすすめてきた成果が見られたと考えられる。
	弱 み	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選ぶ問題と、【話し合いの様子】内の発言の空欄に当てはまる内容として適切なものを選ぶ問題について、全国平均を10ポイント下回った。前者は情報と情報、語句と語句の関係について考える必要があり、後者は目的に応じて文章と図表などを結び付けて考えることが苦手と考えられる。
算 数	強 み	全16問中13問において、全国より10ポイント以上上回っている。特に小数の加法について共通する単位量を捉える問題と、伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題では、どちらも正答率が100%だった。問題における必要な単位量や数量を捉える力がついていると考えられる。
	弱 み	記述問題4問中2問で全国平均正答率を下回り、ともに20パーセント台だった。目的に応じて適切なグラフを選び理由を記述する問題について、誤答者の半数は正しい情報に目をつけていたが理由が不十分であった。また、量について問われているのに対して割合であらわされたグラフに着目している児童も複数いた。 異分母の分数の加法について共通する単位分数がそれぞれいくつ分かを説明する問題について、単位分数がいくつ分かということ自体を記述していない児童が、無回答を含め多数いた。どちらについても、問題で何が問われていて、何を答えないといけないのかを捉える力が不足していることが考えられる。

理 科	強 み	乾電池の直列つなぎに関する知識の問題は、約40ポイントも上回り95%の正答率だった。結露に関する知識の問題も約20ポイント上回り77.8%だった。理科についての知識か、概ね身についていると考えられる。
	弱 み	身の回りの金属が電気を通すか磁石に引き付けられるかの知識については、全国平均を10ポイント上回ってはいたものの、22.2%と、知識があまり身についていなかった。顕微鏡の操作の仕方についての問題は全国平均を10ポイント以上下回っていた。

今後の取組

本校での今回の結果は、1年生の頃から子どもたちと教職員が、毎日の授業に真剣に取り組み、だれ一人取り残さないという思いで、学力向上に取り組んできた成果と考えます。今後も、良い面は伸ばしながら、今回見えてき課題について、以下のような取り組みを進めてまいります。

各教科等の学習場面で、これらの課題を意識し、文章や語句、図表など様々な情報を結び付けて考え、まとめて書く、また、相手の立場から、どこを詳しくすれば目的や意図に応じた文章になるかなど、他者にわかりやすく伝えるような学習活動をこれまで以上に取り入れていく。

理科については、観察や実験の場面を多く設定していく中で、その都度操作方法を丁寧に確認し、さまざまな状態を想定して実際に操作・観察する活動する時間をしっかり設けていく。

質問紙に関する調査の結果・分析から

※「**そう思う**」と回答している児童の割合(全国比)

基本的生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」 +11.7P

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」 +11.7P

「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」 +19.4P

自己有用感・学習習慣 等

「自分にはよいところがあると思いますか」 -7.3P

「先生は、あなたのよいところをほめてくれていると思いますか」 +14.3P

「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」 +6.9P

「学校へ行くのが楽しいですか」 -4.9P

「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」 -12.6P

まとめ

本年度の結果を見ると、基本的生活習慣の部分で肯定的に回答しているポイントが高く、このことは、家庭の生活において、子どもたちを見守っていただいている結果であると考えます。基本的生活習慣が守られていること、家庭生活での安心感、子どもたちの心の安定、学力向上の土台になるものと考えています。

逆に、学習習慣の面では、「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」のポイントが、全国に比べて12.6ポイントも低くなっています。子どもたちが、もっと知りたい、もっと調べたいと思うような授業づくり、自ら計画して学びを進めるような経験を増やしていきたいと思います。

また、自己有用感の面では、「自分によりよいところがあると思いますか」「学校へ行くのが楽しいですか」のポイントが全国に比べて低くなっています。子どもたちには、自分では気づいていない良いところがたくさんあると思います。幸い、「先生は、あなたのよいところをほめてくれていると思いますか」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」のポイントが高くなっており、これまで以上に、子どもたちが活躍できる場を増やし、子どもたちの良いところをしっかりと褒めて、声掛けかけをしていきたいと思っています。そして、子どもたちが、「第一小学校楽しい」「また、明日も学校へ行きたい」と思えるように、全教職員で魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。

今後とも、保護者の皆様のご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。